

# 次世代の有機エレクトロニクスを開拓

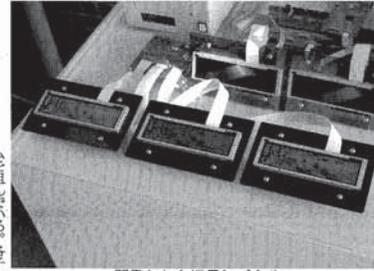
## 最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)

### 国のプロジェクトで成果

#### 企業・研究機関が連携

安達センター長は、国が最先端有機光エレクトロニクス(有機EL)の研究開発を推進している。けん引するのは九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)。福岡市西区、安達千波矢センター長を中心に、材料開発や新製法パイロットプロセス開発などに取り組んでいる。これまでには国のプロジェクトで成果を上げ、新たなプロジェクトにも採択された。基礎研究事業化につなげる遊学官推進を進めている。

材料は電気の安定性が高いため高効率、高耐久性を両立する必要がある。OPERAでは、有機EL材料の開発に集約する計画変更を行っている。約100件の特許を取得している。



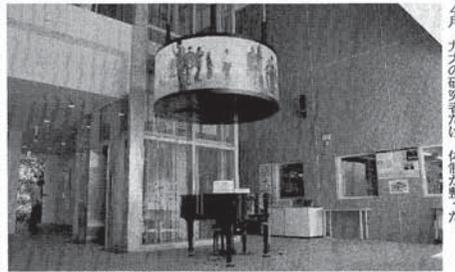
開発した有機ELパネル

OPERAの中間中、研究を加速して取り組んできた知財推進センターが、専門グループが略理的に行い、約100件の特許を取得している。

OPERAの中間中、研究を加速して取り組んできた知財推進センターが、専門グループが略理的に行い、約100件の特許を取得している。



OPERAの研究棟



研究棟入口には円形の有機ELディスプレイ

### OPERA研究棟

OPERA研究棟は、12年に有機ELの次世代材料を開発し、14年度に入り、9大の研究がスタートした。14年度は、9大の研究がスタートした。14年度は、9大の研究がスタートした。

OPERA研究棟は、12年に有機ELの次世代材料を開発し、14年度に入り、9大の研究がスタートした。14年度は、9大の研究がスタートした。

OPERA研究棟は、12年に有機ELの次世代材料を開発し、14年度に入り、9大の研究がスタートした。14年度は、9大の研究がスタートした。

### 人材育成にも注力 即戦力となるリーダーを

OPERAを運営しているリーダーを5年間かけて養成する。OPERAを運営しているリーダーを5年間かけて養成する。OPERAを運営しているリーダーを5年間かけて養成する。

### OPERAセンター長 安達 千波矢氏

interview



現在のOPERAは、太陽電池や蓄電池、蓄電デバイスなどの応用研究も進んでいる。蓄電デバイスなどの応用研究も進んでいる。蓄電デバイスなどの応用研究も進んでいる。

### 将来は学問領域に



OPERAの合成室

OPERAの合成室では、有機EL材料の合成が行われている。OPERAの合成室では、有機EL材料の合成が行われている。

